

体験プログラム 安全管理ガイドライン チェックリスト

シーン	大項目	小項目	チェック	参 考
1.実施前	①プログラム実施の可否判断	各種許可申請、法令・条例に基づく資格取得の必要の有無の確認		マラソンなど、公道を使用したイベントの場合は道路使用許可申請が必要。
		レース扱いの確認		イベント等で特定の地点を時間制限付きで通過させる場合などはレース扱いとなる場合があるため、保険契約や道路の使用許可等について関係機関への確認が必要。
		保険メニューの確認		プログラムの内容によっては専用の保険メニューが無い場合があるため、あらかじめ保険会社に確認するなど注意が必要。
	②参加者レベル	事前周知		まち歩きガイドで階段や坂道が多い場合、事前に参加者へ周知する。
		参加者レベルの設定		長距離のサイクルツアーの場合、「過去に〇〇km以上のサイクリング経験あり」を参加条件にする。
		外国人対応		外国人の参加が想定される場合、言語や宗教、文化の違いに対応したメニューを準備する。
	③予見・回避	危険箇所の想定と対策		危険箇所を想定したコースや怪我を防止するための手順を定める。 危険箇所を示したマップを作成したり、現場での注意喚起の方法をあらかじめ定めた上で、マニュアルを作成する。 「こうち医療ネット」などを活用した当日の医療情報の確認や、事前に参加者へサイトのURLを紹介するなどにより、地域の医療情報を共有する。
		対策に必要なトレーニングや専門家アドバイス		事前の現場下見、事故など最悪の場合を想定したシミュレーションを実施し、それに対応した専門家のアドバイスやトレーニングなどを受けるほか、リスクを回避するための手段について、事前に検討しておく。
		救命講習の受講		心肺蘇生法やA E Dの取り扱い等の救命講習を受講する。

体験プログラム 安全管理ガイドライン チェックリスト

シーン	大項目	小項目	チェック	参考
1.実施前	③予見・回避	地域住民、警察、消防、病院との連携協議		事故が起きた場合を想定し、自治体、警察、消防、病院との連携について事前に協議し、有事の際の情報共有の方法や対応体制を定めておく。
		事故発生時の情報共有の方法、対応体制		ガイドやインストラクターは、事故発生時の連絡体制と連絡先を記載したものを常に携帯する。
	④装備	装備品の確認・装着		装備品の動作確認や劣化状況などについて確認漏れがないよう、日常点検の項目をマニュアルなどで定める。 参加者の身長等に適合したプロテクター等の装備品をプログラムに応じて揃え、正しい装着方法を定める。
		参加者の私物使用の場合の基準		参加者の私物を使う場合は、品質や劣化状況等を確認する項目を定め、プログラム実施前に確認する。
	⑤天候	中止、変更の判断基準		「降水量〇〇mm以上」「〇〇警報・注意報発表時」といった具体的な中止やコース変更の条件を明示する。
		天候悪化時の別ルート		天候悪化を想定して短縮ルートや迂回ルートを複数準備する。
	⑥申込書（同意書）	申込書（同意書）の作成		申込書（同意書）に記載する内容の例としては以下のとおり。 <input checked="" type="checkbox"/> 体験型プログラムに関するルール （例：左側通行、ハンドサイン、地域住民への配慮等） <input checked="" type="checkbox"/> 中止と変更の条件、その場合の手続き <input checked="" type="checkbox"/> 事故が発生した際の補償内容・金額 <input checked="" type="checkbox"/> 参加条件として参加者各自での保険加入が必要な場合 <input checked="" type="checkbox"/> キャンセル料や天候等により中止になった場合の参加費の取扱い （中止の場合、支出済みの経費を除いた残金については返金が必要な場合があるため注意が必要）
	⑦体調管理	体調確認（本人）		体調のチェックシートや申込書への記入など、本人による体調確認の方法を定める。
		体調確認（事業者）		前日の飲酒に配慮するほか、顔色など目視での体調管理の確認事項をあらかじめ定める。

体験プログラム 安全管理ガイドライン チェックリスト

シーン	大項目	小項目	チェック	参考
1.実施前	⑧安全説明	チェックリスト作成		<p>安全説明で確認・説明すべき事項についてチェックリストを作成する。 安全説明の説明事項の例は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 当日の流れ・ルール <input type="checkbox"/> 天候などによる中止・変更の判断 <input type="checkbox"/> 装備 <input type="checkbox"/> 体調確認 <input type="checkbox"/> 補償内容の確認と説明 <input type="checkbox"/> 禁止事項 <input type="checkbox"/> リスク <input type="checkbox"/> 参加の可否の最終判断 <p>説明時に体調不良等により参加を認められない参加者が出た際には、十分に理由を説明し、理解が得られない場合などは、毅然とした態度で対応する。</p>
	⑨衛生管理	衛生管理の徹底		<p>飲食の提供を伴うプログラムの場合、その内容や場所について、食品衛生法に基づく許可手続が必要であるか、保健所に確認する。 清掃や消毒、食材管理といった、基本的な確認事項が抜かりなく励行されるよう、衛生管理に関する手順を定める。 飲食の提供まで衛生管理が徹底されていても、参加者が不衛生な状態で飲食すれば、食中毒や感染症の発生が起こりうるので、参加者へ手洗いやアルコール消毒の励行といった声かけが重要。</p>
	⑩保険	補償範囲の明確化		<p>どのような状況で起きた事象で、誰がどこまで責任を負うのか、また、その場合の補償範囲（金額、サービス）等について保険会社に詳細を確認する。</p>
		補償内容の説明		<p>保険証書のコピーや保険内容を分かりやすく整理した資料を準備する。</p>
		レンタル機材の補償		<p>レンタル機材の不備による事故については、体験プログラム用の保険では補償されない可能性があるため、別途、施設賠償保険への加入を検討する。</p>
	⑪免責事項の留意点	免責事項の説明		<p>「事故は自己責任」との免責条項は無効となる場合がある。 （「危機管理は自己責任であることを十分認識し、同意する。ただし法的権利を何ら放棄するものではない」といった記載の事例はあるが、これは参加者の責任を一定明示するために行われていることが多い。）</p>
		免責が無効となった場合の対処		<p>保険で十分な補償が行える体制を整える。</p>

体験プログラム 安全管理ガイドライン チェックリスト

シーン	大項目	小項目	チェック	参 考
2.実施中	①予見判断	中止・変更の判断基準		実施中の中止・変更の判断基準をメニュー、コース別に明確にする。
		リスク回避方法の設定		天候不良や参加者の急な体調不良に対応した短縮コースを設定する。 危険箇所（水路、崖、段差、道路等）については、見れば分かるではなく、「そこにある」ことを全員に認知させる。 対処困難な事象が発生した場合の緊急連絡先を事前に確認する。 （例：警察や消防、病院、保険会社等の専門部署）
	②事故防止対応	注意喚起		注意喚起するシーンや場所をあらかじめ確認できる、マニュアルやマップを作成する。
		参加者レベルに応じた進行		参加者レベルに応じた進行ができるよう、適正な時間設定や休憩箇所等をあらかじめ定める。
		実施中の参加者の体調確認		参加者の体調に常に配慮し、あらかじめ定めた休憩箇所でも異変がないか確認を行う。
	③事故対応（実施中）	事故対応の手順		事故発生時の警察や消防、病院への報告や救命処置、応急手当等についてのマニュアルを作成し、ガイドやインストラクターは常に携帯する。
		事故処理後の記録作成		事故処理後に必要な記録項目（現場写真、スタッフ・参加者聞き取り等）を定めた、記録シートを作成する。

体験プログラム 安全管理ガイドライン チェックリスト

シーン	大項目	小項目	チェック	参 考
3.実施後	①事故対応 (実施後)	被害者及び関係者の心情に配慮した対応		被害者の心情を配慮した言葉使いや対応を心掛ける
		保険会社や弁護士への確認・相談		加入している保険内容を確認のうえ、保険会社に今後の対応を相談する。 体験プログラムの事案に詳しい弁護士や相談窓口の情報を集める。
	②事故後のフォロー	謝罪、補償対応		場合によっては訴訟に発展することもあるため、自身の判断だけではなく、保険会社や弁護士といった専門機関と相談しながら適正に対処する。
	③事故報告書の作成	事故調査報告書の作成		あらかじめ調査項目を設定して事故調査報告書を定めておき、万一事故が発生した場合には、できるだけ迅速且つ正確に報告書を作成する。
		調査結果の共有・公開		調査結果については、被害者やその関係者の確認や同意を得たのち、適正に共有、公開することで再発防止につなげる。 今後の事故防止対策に生かせるよう、調査結果については、同業者間で共有することが望ましい。